

2019

数字から見る  
日本

今月の提案 Vol.64

# 発達障害をはじめとする障害児童生徒、平成の24年間で約9倍に増加

— 中学校で296名から11,950名(40.4倍)、  
小学校で11,963名から96,996名(8.11倍)へと増加。

近年、発達障害という言葉をよく耳にされると思う。発達障害とは「発達障害者支援法において、『発達障害』は自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」(発達障害者支援法における定義 第二条より)と定義されている(出典：国立障害者リハビリテーションセンターのWebサイト)。

少子化の世の中でありながら、この発達障害含め障害児童の数は増えている。『平成29年度通級による指導実施状況調査結果について』(調査期日：平成29年5月1日)によると、調査結果の概要として、以下の諸点が報告されている。

- 〈通級による指導を受けている児童生徒数〉
- ①昨年度に比べ児童生徒数は10.8%増加している。(平成28年度98,311名、平成29年度108,946名)
  - ②昨年度に比べ各障害種で増加しており、言語障害で768名増、自閉症で3,691名増、情緒障害で2,768名増、学習障害(LD)で2,002名増、注意欠陥多動性障害(ADHD)で1,249

名増となっている。

以下、指導時間別児童生徒数、通級形態別児童生徒数、設置学校数、担当教員数等いずれも増加傾向にある。

上記の概要では、平成28年度と29年度の推移を中心に報告されているが、同資料の『通級による指導を受けている児童生徒数の推移(平成5年度～平成29年度)』では、平成5年度から平成29年度の24年間の推移で、中学校で296名から11,950名(40.4倍)、小学校で11,963名から96,996名(8.11倍)、合計で12,259名から108,946名(8.89倍)と増加している。

繰り返すが、世の中全体は継続的な少子化傾向であり、それが様々な経済的な課題を生んでいる。その中で明らかに発達障害をはじめとする障害児は増加しているのである。

その要因に関しては発症しやすさを決める遺伝子的な要因との話もあり、身体的な側面としては、各々の機能(行動)に対応している神経回路(シナプス)がおかしくなり、対応した機能のみが異常となるとの見解が示されている。ただし、なぜそうなるのかの要因は公的な見解としてはまだ明確な結論は示されていない。しかし、その要因には有害な化学物質、特に農薬が原因であるとする識者もいる。

いずれにしても、この増加の仕方は異常であり、発達障害とされる各障害の定義が平成15年3月や平成11年7月に変更され、従来以上に定義の範囲が広がったという背景もあるが、前述したように平成28年度から平成29年度の一年間でもかなりの増加していることから見ても、単なる定義変更だけではない現象が起こっている。この現実には重く受け止める必要がある。

【参考】  
平成29年度通級による指導実施状況調査結果について  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/\\_icsFiles/afeldfile/2018/05/14/1402845\\_03.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/_icsFiles/afeldfile/2018/05/14/1402845_03.pdf)  
発達障害とは(厚生労働省・国立障害者リハビリテーションセンター)  
<http://www.rehab.go.jp/ddis/%E7%99%BA%E9%81%94%E9%9A%9C%E5%AE%B3%E3%82%92%E7%90%86%E8%A7%A3%E3%81%99%E3%82%8B/%E7%99%BA%E9%81%94%E9%9A%9C%E5%AE%B3%E3%81%A8%E3%81%AF/>  
特別支援教育について(文部科学省)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1406456.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456.htm)

## 通級による指導を受けている児童生徒数の推移



※各年度5月1日現在  
※「聴覚その他」は聴覚、視覚、肢体不自由及び病弱・身体虚弱の合計である  
※「注意欠陥多動性障害」及び「学習障害」は、平成18年度から通級指導の対象として学校教育法施行規則に規定  
(併せて「自閉症」も平成18年度から対象として明示。平成17年度以前は主に「情緒障害」の通級指導の対象として対応)

出典：文部科学省 平成29年度特別支援教育に関する調査の結果



### 美楽からの一言

少子化のトレンドの中で増加し続ける発達障害をはじめとする障害児。ベースとなる児童数は減少しているのに増加しているという、どう考えても不思議であり、おかしい現象である。この原因に関してあらゆる可能性を検証することが必要であり、未来のためには不可欠な検証であるといえる。